



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 165 号 ■

全日本民医連薬剤部門 代表者会議に参加して

取締役薬剤部長 ファルマ弘前薬局 薬局長 相馬 渉



12月4日(土)、5日(日)に第44期全日本民医連薬剤部門代表者会議が、ZOOMで開催されました。全国からは216名の参加でした。

学習講演では、「ポストコロナ時代の民医連医療と民医連薬剤師」というテーマで、全日本民医連副会長の大島民旗氏に講演をいただきました。この間の選挙の話(政治が変われば医療は良くなる民主党政権時代のみプラス改

定だった)から社会的処方(社会とつながりがないことが寿命を縮める)、薬剤師として、相手に共感する、専門職としての地域を意識するまなざしをもつことの大切さが語られました。その他に、問題提起、保険薬局政策2021、指定報告、分散会討論がありました。

2日目は、病院薬局分科会と保険薬局分科会に分かれて、第44期全日本民医連薬剤部門代表者会議活動報告と分散会討論が行われました。コロナ禍による外来患者減と薬価引き下げは、民医連薬局を直撃し、空前の処方箋減と

経営難に苦しんでいます。その中で、民医連薬剤師活動の到達と課題の確認、コロナ禍の中、医療介護の2つの柱をさらに発展させる薬剤師活動の交流、保険薬局政策2021をもとに、民医連保険薬局の新たな発展をめざすヒントを討論してきました。経営が厳しいからこそ、目標を掲げて、全職員で経営の問題を共有し、同じベクトルでやっていくことが大切であることを再認識しました。この間ファルマ

でやっている社員集会や管理者合宿で討論している内容は、とても先進的なものだと思えました。

平和活動交流集会

より充実した活動に

12月11日(土)全日本民医連第13回平和活動交流集会がオンライン開催され、ファルマからはZOOMで10名が参加しました。

全日本民医連反核平和委員会の平井充晴委員長からの問題提起報告では、核兵器をめぐる世界情勢や日本における米軍基地問題の解説がありました。平和を守るためにより充実した活動につなげようと呼びかけました。

安保破棄中央実行委員会事務局の林竜二郎次長による学習講演「日米安保条約下での現在の世界と日本をめぐる情勢」では米軍による事件・事故の発生状況や防衛費の推移などの解説がありました。日本の法律で裁くことができない不公平を作り出す地位協定。その改定要請が全国に広がっているこ

とが印象的でした。基地のある土地の問題を多くの人に知ってもらい、解決に向けて継続的に活動していくことが大切なのだとわかりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、平和を守るための活動も様々な制限の中で行われてきました。対面での交流はできませんが、リモートのための場所や人数に制限がなく、なれたことは多くの参加者にとって貴重な機会であったと思います。

指針に基づいた職場での教育・育成

本部 課長 鈴木 健仁



12月24日(金)全日本職員育成活動交流集会に参加しました。初めに、岩須事務次長より、職員育成指針2021年度版の

報告がありました。印象に残ったことは、「民医連の青年の意識は高い」というものでした。高いといっても初めから高かったわけではなく、入職後の職場の中で意識が変わっているとのこと。指針に基づき職場での教育・育成を重要視しなければ

ならないことを改めて感じました。午後は、全国7法人から活動報告がありました。最後は各グループに分かれて、活動報告・職員育成指針への意見や感想を出し合いました。WEBでの参加となりましたが、全国の取り組

みや、各職場での事例等を聞くことが出来ました。抱えている問題は様々ありますが、すぐに解決できるものはありませんが、情報を共有することで、後の職場での教育・育成に生かしていきたいと思えます。

が、リモートのための場所や人数に制限がなく、なれたことは多くの参加者にとって貴重な機会であったと思います。



ファルマ弘前薬局の様子



開会の挨拶をする全日本民医連の木下事務局次長

全国青年ジャンボリー

LGBTQに対する知識を身に着ける

ファルマ弘前薬局 中西 茉季

11月26日(金)、27日(土)に全日本国民



班のみんなと楽しく交流できた♪

医連第39回全国青年ジャンボリーオンラインに参加しました。1〜90班あり各10人くらいの班分けがされていました。1日目は、班交流会とフォトジャーナリスト・安田菜津紀さんの講演がありました。2日目は、班別に講演を聴きました。2日間で特に印象に残ったのは、いろいろなドクターズの吉田先生の「L

GBTQ※と医療から人権を考える」です。時代による疾患名・概念の変化や健康格差、同性婚ができないことによる困りごとなど詳しく教えていただきました。戸籍上の名前が呼ばれるため受診しづらい・救急車を呼んだ時に性別同一性障害であることを理由に「どう対応しているかわからない」と言われ搬送されるまで時間がかかったという事例を聞き、医療従事者のLGBTQに対する知識を身に着けることがとても大切だと感じました。無差別・平等の医療を目

いつかは直接交流を

ファルマ弘前薬局 薬剤師 成田 創



趣味の話で盛り上がった班交流

11月26日(金)〜27日(土)に全日本国民医連第39回全国青年ジャンボリーに参加しました。今年初のZOOMでの開催でトラブルも僅かにありながらも成功したと思います。参加者は80人近くで、そこから100人ほどの区切ったZOOMの部屋が割り当てられていました。さらにその100人ほどの部屋には7、8人の班があり、交流会などはその班で行いました。全体での講演会や映像を見る以外は基本的に班専用の部屋があり、そこで交流しました。薬剤師は私1人で、看護師が3名、ソーシャルワーカーが1名、調剤薬局の事務が1名、介護士が1名で

まともな社会を目指してたたかう

本部 事務局長 舘田 総子



12月10日(金)、全日本国民医連主催の「人権としての

指すには、他人事ではなく身近な問題として、これからもジェンダー問題に目を向け、誰もが安心して生活できる社会にできるようにもっと勉強していきたいと感じました。※性的少数者(セクシャルマイノリティ)を表す言葉の1つ

他の班では理学療法士や作業療法士などといったようです。26日の17時から行われた班の人たちとの交流会では、20時まで趣味の話や地元の話などテーマに縛られず自由に話をしました。地域も様々で方言なども話題としてあります。例年であれば直接お会いし、他県の参加者と交流して親睦を深めるイベントでしたが、今回は画面越しということもあり少し不安もある中、とても貴重なお話を聴くことができ

社会保障とは何か

ファルマ弘前薬局 主任補佐 工藤 由希子



6月14日(月)、8月31日(火)、10月11日(月)、12月13日(月)の4回にわたり、全日本国民医連「人権としての社会保障セミナー」が開催されました。

初日に講義をいただいたNPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典氏は、貧困・健康格差の問題は、決して本人の責任ではなく社会的に引き起こされていること、不安定な働

き方が広がっていることなど、貧困にはしつかりとした原因があるとおっしゃっていました。

また、愛媛大学教授の鈴木静氏は、「人間らしく生きたい」「(生存権)の具体化を求めた朝日訴訟について、「人間らしく生きたい」とは、この水準では暮らしていけないとの切実な生活欲求から出発したものであり、これまでどおり人間として敬意をもって対応してほしいということだと話されました。

いまや人権は、思想や道徳、倫理の問題にとどまるのではなく、制度として保障されなければならぬ段階にきており、それが、国際連合を中心に日本を含む加盟国が歩んできた到達点なのです。

いつかは全国の方々と直接交流してみたいと思いました。

たたかわずにはいられない気持ちになります。コロナ禍では更に思いは強くなります。いのちを大切に政治、人にやさしい社会にするために、多くの市民が国民医連職員に期待を寄せています。

ファルマの仲間とともに同じ思いの人たちと次の闘いに向けて、がんばる勇気をいただいたお話でした。

最終日は全日本国民医連増田剛会長から講義をいただき、「権利としての社会保障」はたたかかってこそ得られるものであり、政治を変えなければいのちを守るができないと話されました。

いのちが何よりも大切にされ、誰もが安心して人間らしく生きられる社会へ転換していきけるように、私たちはたたかわなければなりません。

今回、多くの国民医連の仲間と社会保障について学び、こんなにも同じ想いの職員がいることに嬉しさと心強さを感じました。一人ひとりでできることから始め、社会を変えていきます。

OTCプロジェクト委員会 高度管理医療機器伝達講習会

ファルマ弘前薬局 副薬局長 葛西 孔明

1月18日(火)に、社内講習会が実地とWEBの併用で開催されました。

医療機器について薬局で直接販売するケースは少ないため疎かになりがちですが、販売方法や帳簿への記録については対応する可能性のある職員は把握しておく必要があります。また現状処方箋の指示で不足することはありませんが、在宅中心静脈栄養用輸液セットや携帯型デバイスポンプや注入ポンプ等、在宅に関わる医療機器、医療材料について薬剤師は特性を把握しておく必要があります。

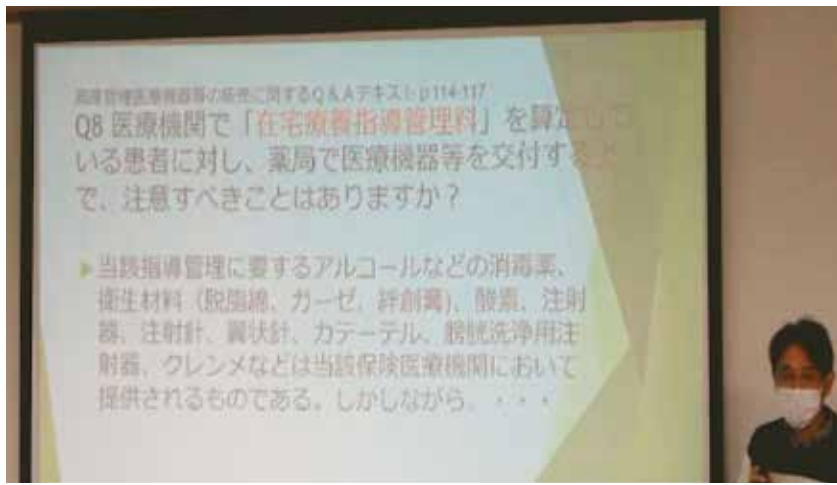
その後、OTCプロジェクト委員で薬剤師の雪田主任補佐が紹介した浪岡薬局のOTC販売の取り組みには目を見張るものがありました。商品設置方法やPOPの工夫、細かな心配りと様々なアイデアが盛り込まれており大

要指導医薬品、一般用医薬品の販売については、分類ごとの設置基準、販売記録のルールを知っておく必要があります。これらの内容について、OTCプロジェクト委員会委員長で弘前調剤センターの津川薬局長が講師を務めました。

変参考になりました。なにより職場全体で取り組むことで良好なコミュニケーション形成に役立っていることが素晴らしいと感じました。各薬局で参考になったのではないのでしょうか。

今後、高度管理医療機器伝達講習に加え、医療機器、医療材料、その他OTC関連商品に関する学習会を定期的に開催する

今後、高度管理医療機器伝達講習に加え、医療機器、医療材料、その他OTC関連商品に関する学習会を定期的に開催する



わかりやすく丁寧に話す津川薬局長

やりがいをもって働いていくために

ファルマ弘前薬局 主任補佐 小田切 望

一人の職員が自己肯定感を持って活動できる場にする必要があるという話
が印象に残っています。
忙しい環境の中ではきちんとした振り返りと評価を行う余裕がないこともありますが、やりがいをもって働いていくためにも職場環境については考えていかなければならないと感じました。



1月18日(火)、職場管理者・職場管理補佐研修がZOOMによるWeb開催にて行われました。
講師に全日本医連事務局長、長野県民医連事務局長の岩須靖弘氏を迎え、全日本医連職員育成指針2021年版を参考にしながら、民医連の目指す職員育成の指針や育成のために職場には何が求められるかなど幅広い内容を分かりやすく説明いただきました。

今後働いていく中で参考にしたい話が沢山ありましたが、特に職場を一人

一人の職員が自己肯定感を持って活動できる場にする必要があるという話が印象に残っています。

「介護の補足給付」を学ぶ

居宅介護支援事業所ファルマ 高木 美雪



講師の伊勢充氏

12月25日(土)弘前市民会館にて、補足給付の制度、8月に見直しされた補足給付の影響について学びました。

参加者からの質問もあり活発な意見交換ができました。それをもとにアンケートの結果やサービスマネジメントの結果を及ぼしている生の声を弘前市の介護保険をよくなる会の高松利昌事務局長から報告がありました。

補足給付の対象から外れる利用者、食費増やサービス利用に影響があることを改めて学びました。参加者15名が真剣な眼差しで聴いており、また自身の将来についても考えさせられました。

今後、国に補足給付見直しの取りやめを要望し市独自の支援措置ができるよう「弘前市の介護保険をよくする会」として更に市へ働きかけたいです。



弘前薬局を会場にZOOMで開催

みんなで考えるゲンパツ学習会

知らない、考えないは罪

ファルマ弘前薬局 乗田 沙緒莉

11月29日(月)藤代薬局の中村光樹薬剤師より「みんなで考えるゲンパツ学習会」のお話を聴き、印象的だったことは、原子力発電の核燃料サイクルの仕組みの中で出るプルトニウムは、すぐに核兵器として作ることができるため、核兵器を作れる原子力発電は、無くしてほしいと思いました。

ただ、福島原発事故から10年以上の年月が経ってもまだ放射線量が高く近づけず、現在ある核のゴミ問題対応が進んでいないことも事実で、どれだけ科学が進歩してもできないことはあるので、作って使うだけではいけないのだと改めて思いました。

また、最後にお話しした「知らない、考えないは罪」という言葉を聴き、まずは学習して知ることが大切だと思いました。

6才のわたし

本部 伊藤しのぶ

「おばさん、おばさん、歌、うとおてけれ」
「おばさん、おばさん、遊ば、かごめかごめ」
私の初舞台の台詞です。

木下順二作・演出、山本安英・主演の『夕鶴』は、畏にはまっていたところを助けてもらった鶴が自分の羽で反物を織って恩返しをするという有名な作品です。その劇の村の子どもとして出演しました。

かつて、働くものための演劇鑑賞団体「弘前労演・ろうえん」(後に弘前市民劇場と改名)というサークルがありました。毎月会費を納め中央のプロの劇団を招聘して作品を鑑賞します。その頃は全国巡演に子役は連れて行けず、現地の子ども達を舞台に出演させており、私は弘前公演の子役の一人として舞台を踏みこなったわけです。小学校1年生だったと思います。

だいぶ前から練習しましたが、父・作間雄二(劇団弘演の創設者)の演技指導は小学生相手でも手を抜かずとても厳しく、半分ベソをかきながら台詞を言っていた記憶があります。でも本番当日、本物の役者さんとリハーサルをし、プロの方にメイクもしてもらい、嬉しくて嬉しくてワクワクしていました。

主演のおつう役・山本安英さんの、本当に鶴が舞い降りたような美しい演技にうっとり見惚れていました。尊敬する役者さんで、一緒に舞台に立てたことに大感激した素敵な思い出です。



小学校1年生の伊藤しのぶさん(手前右)



1月22日(土)青森県弁護士会主催WEB講演会「抑止力頼みで平和は守れるかー日本の安全保障戦略を考えるー」を受講しました。

講師の柳澤協二さんは元内閣官房副長官補として、安全保障政策や危機管理を担当された方です。今、日本を取り巻く様々な国際環境が変わりゆく中、日本の安保論には、いくつかの欠けている視点があるとお話されました。お話を拝聴して私が思ったのは、戦争を知らない若者には「政治を選択する主権者としての判断」を出来るよう、学習していただきたいと思いました。

政治を選択する主権者としての判断を

ファルマ弘前薬局 主任 水木 孝之

写真紹介

快適にサービスを受けるには



健康にまつわる話をする大川薬局長

11月9日(火)松の湯交流館で津軽保健黒石支部レモン班主催の出張出前講座が参加者10名で開催されました。講師の黒石薬局大川薬局長は「薬局のかしこい使い方、健康のウソ、ホント」をテーマに、快適に薬局でサービスを受けるためにはどうしたらよいかをわかりやすく紹介しました。

4法人のケアマネジャーが参加



全員で自己紹介をしてからの講義でした

12月17日(金)津軽保健生活協同組合主催の出張出前講座が協会展館で開催されました。弘前調剤センターの津川薬局長が「薬剤師による居宅療養管理指導とかかりつけ薬局薬剤師」について話し、ケアマネジャー12名が参加しました。事例や体験談を交えた講義に、参加者からはとてもわかりやすかったと好評でした。

講義の中のお薬クイズも好評



雰囲気よく楽しく開催♪

1月13日(木)つがる地球村で、津軽保健生活協同組合鶴田支部主催の出張出前講座が開催されました。講師はファルマ 一ツ谷薬局の西沢主任で「薬剤師による正しい薬の飲み方」について講義しました。「理解しやすい内容で楽しく学習できた」「役に立つことばかりでとても良かった」などの感想がありました。

ポリファーマシーについて話す良い機会



Teamsを使って行いました

11月16日(火)特別養護老人ホーム福寿園で弘前市東部地域包括支援センター主催の出前講座が開催され、ファルマ弘前薬局の相馬薬局長が講師を務めました。「支援者に気にかけてもらいたいお薬のこと」について話し、ケアマネジャー19名が参加しました。